



オープン5年を記念して掲げられた手書きの大きなイラスト=2月28日

くす玉作りに熱心に取り組む利用者ら=同

このサロンのように、地域社会で「たまご場」「居場所」になつていいのコミュニティカフェの運営者は、住民の結びつきを強めるだけ

住民の孤立化防止に期待

地元の住民による4年間のワークショップ(検討会)を経て、2009年4月、同サロンは、西落合見立館の2階にオープンした。ワークショップで企画・立案を行つてきた住民らでつく

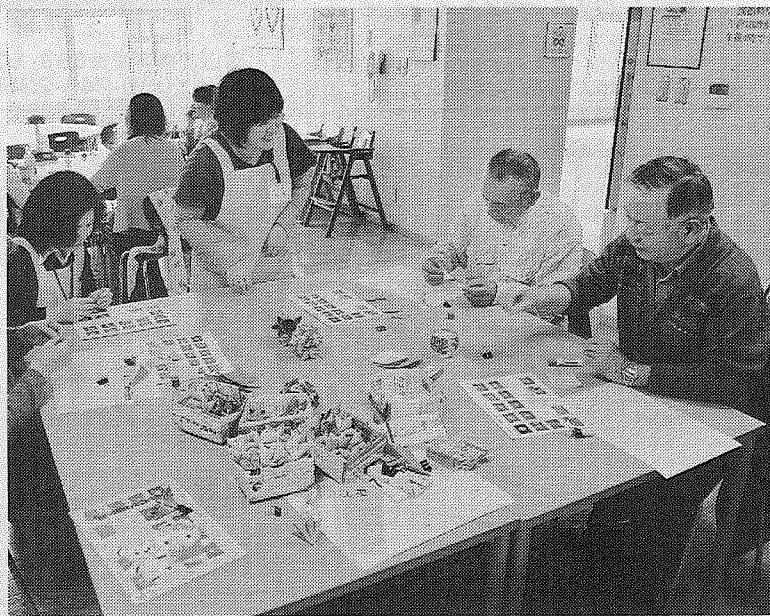
人気のリサイクルコーナー。衣類には「20円」の値札も=同

街で光る 居場所づくり

東京都新宿区にある「落合三世代交流サロン」には、子どもとその親、子育てを終えた世代など多様な住民が集い、さまざまな取り組みを展開している。その様子は、まるで三世代が集う「お茶の間」だ。都市部の新たなコミュニティとして注目される同サロンの活動を追った。

東京・新宿区

落合三世代交流サロン



落合三世代交流サロンの一室、「食と交流のコーナー」に午後の暖かな日差しが降り注ぐ。「では、お散歩に行つてきますね」「行ってらっしゃい」。丸テーブルを囲んで、赤ちゃんを抱いたママたちが、おしゃべりに興じていた。

同じフロアには、高齢者のグループがサロンのスタッフに教えてもらひながら

内には季節に応じて飾り付

けが施される。この日は、かわいらしいひな祭りの装飾が。製作中のくす玉も飾

子育て相談、ミニFMも人気

人気のリサイクルコーナー。衣類を販売。ホットができるひとときの場を提供している。「リサイクルは、低価格の乳児の衣類やぬいぐるみなどをサロン内で販売。「食と交流のコーナー」で弁当を食べていただけの母親は、「ベビーバスを10

時100円でコーヒーを販売。ホットができるひとときの場を提供している。「リサイクルは、低価格の乳児の衣類やぬいぐるみなどをサロン内で販売。「食と交流のコーナー」で弁当を

流を育てる会」が運営の主体だ。サロン運営の特徴は、同会内に「カフェ」「リサイクル」「レクリエーション&カルチャーセンター」、「子育て」「ミニFM」の五つのプロジェクトを設け、それが活発に活動していることだ。

12年度の入館者数は約1万5000人に上り、各プロジェクトの催し物の利用者数は3512人。評判を聞きつけ、隣接区から来る人もいるという。世代別に20代から30代の幼児連れの母親、60代から70代のシニア層が多い。

田嘉男事務局長は地域の高齢化がさらに進むことを見据え、「まだサロンに来たことがない人たちにも来てもらえるようなイベントなどを、真剣に考えていきた」と抱負を語っている。

地元の住民による4年間のワークショップ(検討会)を経て、2009年4月、同サロンは、西落合見立館の2階にオープンした。ワークショップで企画・立案を行つてきた住民らでつく

大学生によるFMの生放送(同サロン提供)

でなく、都市部における高齢者や子育て中の母の孤立化などを防ぐ面からも近年、注目されている。多くの団体が運営方法などで頭を悩ます中、同サロンは行政のバックアップと人材に

恵まれ、全国の中でも成功例の一つだ。

「情報交流の拠点となる意義が大きい。利用者側から運営者側に転じた事例もある。運営者側の生きがいにつながる点も魅力だ」と述べ、その可能性の広がりに期待を寄せる。

このように、地域社会で「たまご場」「居場所」になつていいのコミュニティカフェは、地域住民の結びつきを強めるだけ

り受けられるところ。「こりや、一つのバーチを作るだけでも大変だ」。悪戦苦闘(69)。向かい側で作業して

いた女性(75)は、サロンで毎週催されるシニア向けの体操座にも通う。「この施設みたいに外に出掛けられる場が近所にあるのは、本当にありがとうございますね」と、しみじみと話していた。

狙い通り幅広い世代から受け入れられているようだ。

り受けられるところ。「こりや、一つのバーチを作るだけでも大変だ」。悪戦苦闘(69)。向かい側で作業して

いた女性(75)は、サロンで毎週催されるシニア向けの体操座にも通う。「この施設みたいに外に出掛けられる場が近所にあるのは、本当にありがとうございますね」と、しみじみと話していた。

狙い通り幅広い世代から受け入れられているようだ。

「子育て」は乳幼児の相

きできたり。観察や見学も多いですよ」と語っていた。

このほか、サロン内では、夏祭りやクリスマス会など季節のイベントも開催して

いる。

ミが「ミニFM」で、毎週土曜日を中心にFMラジオの生放送を実施している。珍しい試験を開始し、おやつ作りな

シニア向けの健康体操など

教室や絵画教室をはじめ、収穫祭などを楽しんでいる。